

# まちづくりワークショップまとめ

## (1) ワークショップ実施の趣旨

現在、安来市で策定を進めている「第2次安来市総合計画」の後期基本計画に関して、市民の声を計画に反映させるため実施した。これまで安来市が行ってきた施策や事業など市民からの意見や課題の洗い出しを行うとともに、まちはみんなで作るものであるため、自分事としてできることを宣言し、安来市のまちづくりに身近に感じる機会づくりを目的として実施した。

## (2) ワークショップの概要

開催日時：令和元年10月27日（日）13：30～16：00

場 所：防災研修棟研修室（安来市安来町878-2）

参加人数：22名（うち推進委員3名、一般17名、高校生2名）

## (3) ワークショップの検討内容・テーマ

市民アンケート結果、事業評価の結果を基に下記の選定条件を当てはめ、特に重点とすべき4テーマを選定した。この4テーマに関連する事業、または焦点になり得る事業を選定し、各担当課から事業概要説明を行った。下記4テーマ以外に「いろいろ」テーブルを含む5テーブルを用意し、事業やまちづくりに対する意見・アイデアを出し行った。最後は、まちづくりに対する自分事としてのアクション宣言を行っていただき、市民参画の重要性を認識して頂いた。

### ■選定条件

- 市民アンケート結果の優先度が高い施策
- 市民ニーズが大きく変化した施策
- 前期計画の評価結果が低い施策
- 国や県の計画や今後の方向性を考慮した施策
- 人口減少対策に効果的と思われる施策

### ■テーマ

- A 地域情報化 ～快適な都市生活を送ることができるまちづくり～
  - 地域情報化推進事業
  - 携帯電話不感地域対策事業
  - Society5.0
- B 商業振興 ～みんなで支えあうまちづくり～
  - 産業サポートネットやすぎにおける企業支援（安来市夢追人支援事業など）
  - 創業支援事業
  - 得する街のゼミナール事業
  - 商業再生支援事業
- C 医療サービス ～健康的な日常生活を送れるまちづくり～
  - 「健康やすぎ21」推進事業（がん対策・歯科保健・自死対策・食育推進など）
  - 医師・看護師確保対策事業
- D 結婚子育て ～安心して子育てできるまちづくり～
  - 教育・保育提供体制の確保
  - 結婚活動支援事業
- E いろいろ
  - その他の施策、総合計画・戦略自体、まちづくり全般…なんでも

#### (4) まとめ

##### A 地域情報化 ～快適な都市生活を送ることができるまちづくり～

###### ○事業評価

観光情報や各地域でのイベント情報など市の情報の発信力についての課題が多い印象であった。またSNSなどの発信が弱く、多言語化が出来ていないとの指摘があった。またインターネットを使えない高齢者への対策も同時に必要である。

###### ○自分事として

自分自身が行政からの情報を受け取る努力とともに、地域の魅力なども自分自身からSNSを通じて発信していく努力をするという意見が見られた。

###### ○意見一覧

###### 【情報】

- ・ ネットで安来の情報が無い（英語）  
⇒観光スポットやイベント情報など
- ・ ビジネスやイベントの情報がFacebookに掲載されていない
- ・ 発信力の不足
- ・ 情報発信能力研修の場を市民向けに行ってほしい
- ・ 高齢者への対策にポケベルを使う

###### 【通信環境】

- ・ 携帯電話が使いづらい  
⇒災害に弱くなる  
⇒子供が嫌がって安来に帰ってこなくなる
- ・ Wi-Fiの電波が弱い、改善してほしい  
⇒生存確認の際に使う
- ・ ポケットWi-Fiを市でレンタルできるようにする
- ・ 鉄塔を建てる理由が分からない（他に方法は無いのか）
- ・ フリーWi-Fi  
⇒緊急時に使える
- ・ NHKラジオの電波が入りにくい（FM・AM）

##### B 商業振興 ～みんなで支えあうまちづくり～

###### ○事業評価

中心市街地活性化事業において中心市街地の位置や定義（どこを振興していくのか）がなされておらず、国道9号線からのアクセスも分かりづらく駐車場がないとの意見があった。

買い物面においては、大型スーパーの立地もいいが、地元商店も守る取り組みも必要である。

起業や創業面においては、ハードに一番お金がかかるため、ハードの補助金の強化や、ハード事業・ソフト事業の区分けの廃止を求める声もあった。また個人事業主どうし（農業、漁業、個人商店等）の連携の場を作れば、アイデアなどが生まれる可能性があるとの意見もあった。

観光面では、足立美術館から高速乗口までのルートに、観光客が立ち寄る仕掛けや、高級宿泊施設の建設誘致、豊かな自然を活かしたキャンプ場、農園整備など意見があり、地元にお金が落ちる仕組みが必要である。

#### ○自分事として

チャレンジをする仲間を集め、人との繋がりを大切にしたいとの意見があった。

#### ○意見一覧

##### 【中心市街地】

- ・どこを中心に振興をするのか、どこが中心地なのかハッキリしていない  
（安来、伯太、広瀬）
- ・中心市街地に駐車場が少ない

##### 【施設】

- ・宿泊施設が無い  
⇒星野リゾート（ゲストハウス）とのコラボ  
⇒空き家を民泊として使う  
⇒家賃のギャップがある（高い）
- ・遊ぶ場所が少ない
- ・伯太はローソンしか無い
- ・安来だから行きたいと思わせるようなスポット（宿、施設）を作る
- ・I・Uターンしにくい（住む場所を探しにくい） → 空き家バンクの登録なし
- ・アウトドアな施設を作る

##### 【交通機関】

- ・バスの本数が少ない
- ・伯太⇄広瀬の移動がバスで1時間かかる
- ・松江、米子行きシャトルバス運営  
⇒一部来てくれるかもしれない

##### 【事業関係】

- ・個人事業主同士の連携
- ・ライオンズクラブやロータリークラブ等社会団体の連携
- ・イチゴ農園の観光で補助金がほしい
- ・夢追人支援事業（200万）のハード分が少ない（30万）
- ・昔からの店をより有効に使う

##### 【お客さんの呼び込み】

- ・米子、松江からお客さんを呼ぶ
- ・足立美術館からのお客さんを引っ張ってくる

## C 医療サービス ～健康的な日常生活を送れるまちづくり～

### ○事業評価

各種検診についての周知方法が年代によって周知方法や、健診内容が違うためその人々にあった周知方法がなされていないに加え、健診の必要性や市民認識が低い。また、検診に行く時間がなく、休暇など会社の理解促進が必要であるとの意見があった。

### ○自分事として

検診を受診するとともに、知り合いにも受診を薦めたいとの意見があった。

### ○意見一覧

#### 【受診・検診】

- ・企業が行う検診と市が行う検診の違いが分からない  
⇒会社にPRを行う
- ・企業、年代によっても検診が異なる
- ・検診の時間が長い
- ・土日に受診できる病院もある  
⇒休みをずらす
- ・時間外対応
- ・ガン検診の認識に必要性が感じられない  
⇒男性は数字で説明すると分かりやすい  
⇒情報を取りに行かないので芸能人（もしくは身内）が発信する
- ・ポイント制で何かをもらえるようにする  
⇒会社もポイントで優良店として認定。マイナンバーカードで管理

#### 【情報発信】

- ・土日のイベントが分からないし、忙しい（子供の世話など）
- ・PR方法  
⇒インターネット（SNS）  
⇒スーパー
- ・情報発信している場所と対象者が違う  
⇒発信した啓発物に意識がある人とない人の差（キャッチフレーズが大切）

#### 【就職】

- ・働きやすい環境の整備
- ・安来に医療関係で就職してくれる人に補助金を出す

- ⇒安来に就職することにメリットが無い
- ⇒高齢者を集めてお客さんを増やす（病院や医師にもメリット）
- ・医療機関の斡旋として米子や松江を紹介される

## D 結婚・子育て ～安心して子育てできるまちづくり～

### ○事業評価

保育事業に関しては、各園の特色の発信や、副食費の問題も含めた食育、子育て情報サイト「ママフレ」のPRや見やすいよう改善してほしいなどの意見があった。学童事業については、希望する学童施設に入れないことや、学年の壁の撤廃、夏休みに子どもが集まれる場所を作してほしいとの意見があった。

結婚事業については、都会地から人を呼べるイベントを行ったらどうかなどの意見があった。

### ○自分事として

安来市の子育て施策を知り合いのママ友にPRしたいとの意見があった。

### ○意見一覧

#### 【保育】

- ・各園の特色があると保護者も選びがいがある
- ・待機児童はゼロだが誰もが希望した園に入れるといい
- ・年度途中の入所をしやすくしてほしい
- ・副食費の問題も含めて食育に力を入れる
- ・兄弟姉妹で別々の園になるのはやめてほしい
  - ⇒送迎に大きな負担
- ・スマホで子育て情報を得られることをPRしてほしい
  - ⇒子育てサイトは字が多いし見づらい、検索できない → 情報をシンプルに伝える（市のHPと子育てWEBサイトの2つがあり分かりにくい。）
  - ⇒例：長野県佐久市「教えてドクター」
  - ⇒子連れのイベントやレストランの情報が欲しい
- ・学童に入れない
  - ⇒夏休みの日中に子供が集まれるところが欲しい（校区単位）
  - ⇒学年の壁をなくして欲しい（どこの学童も最終学年まで預かってほしい）
  - ⇒小さい単位でイベントができるといい（例：サマースクール）
    - 場所、人、財源の確保が必要
    - 一風亭、交流センターなどの活用・整備（子供に勉強を教えたい学生を募る）
    - 保護者も一緒に運営を行う

## 【結婚】

- ・都会の人を連れて帰れるセミナーを行ってはどうか。

## E いろいろ

### ○事業評価

様々な意見があったが、総じて情報の発信力不足や多言語化の遅れなどの意見が多い印象であった。また安来市の風景や、たたら歴史などインターネット（SNS）によるPRを強化してはどうかとの意見があった。昨今の情報化社会に伴い、高齢者向けのスマホ講習の開催も行ってほしいとの意見もあった。

### ○自分事として

今回のワークショップでは比較的30代～40代の働き世代や外国人住民も参加して頂いたため、安来市を国際化していきたい、自分も国際感覚を磨くなど多文化共生を意識した意見、SNSを活用し安来の魅力を自分自身でPRしていくなどの意見があった。また、コミュニティづくりをしたいなど、人と人との繋がりを重視したいとの意見が多い印象であった。

### ○意見一覧

- ・図書館に子供向けの算数の本が無い。
- ・国際イベントをあまりやっていない。  
⇒イベントを行った上で、その情報を動画などでSNSに載せる  
⇒コラボイベント（アニメなど）
- ・移動が不便（公共交通機関）
- ・宿泊場所が少ない  
⇒空き屋の活用（安来の強みにする）
- ・多言語で農業と景色に関するツアーをしてほしい  
⇒雑誌よりもSNSや動画で広報してほしい（英語で）  
⇒観光地を増やす（キャンプ場、イチゴ農場など）
- ・オープンデータの写真が知られていない  
⇒Instagramに載せる（タグ付けもして検索に引っかかりやすく）
- ・遊びに来る人がいない、場所が無い、発信が無い  
⇒地域住民と他から来た人の交流 → 「地域連携」で対応
- ・子供の遊ぶ場所が少ない。（特に屋内）  
⇒体育館、キッズスペース
- ・世代間交流の施設を増やす  
⇒つどいの広場のようなものを多くする  
⇒高齢者のスペースはある 例：プラーナ

- 子供が遊べるような自然（かつ浅瀬）の川が無い  
⇒水質改善
- ゴミ捨て、分別：少し緩くしてはどうか（分別が負担になる）、又は焼却場を作る  
⇒維持が難しいのではないか
- 年配者対象のスマホ講習をする